

ちよつど楽しい お知らせ

中司愛子 (植野)

七十六年に一度しか現れないハ
レー星は、今年三月二十一日
の未明、一時間半だけ最もよく見

えます。

一生に一度だけの出会いです。
すばらしいハレー星のウエデ
イングドレスの輝きを忘れずに見
ましょう。(カレンダーの三月の
ところにはっておきましょう。双
眼鏡があれば、すばらしい星
を見られます。

子供たちに夢を、大人にも夢を、
美しいハレー星を見て「光」
ある人生を歩きましょう。



図書館だより

新刊案内

〔一般図書〕

- ▼命(三田誠広) ▼家の匂い(増田みず子) ▼マー先のバカ(杉本治) ▼死者の輪舞(泡坂妻夫) ▼関西周辺一泊の旅(実業之日本社)
- ▼日本の名随筆(1)(11)(長部日出雄) ▼密使支倉常長(1)(11)(長部日出雄)
- ▼うさぎむさぎ(飯沢暎) ▼黒いドレスの女(北方謙三) ▼おお、定年(加藤) ▼ゴルバチョフ(トーマス・パトソン) ▼まわり道の幸せ(長崎源之助) ▼文七殺し(山本昌代) ▼やけたた奴(難波利三)
- ▼手作りアクセサリー(ひかりの)
- ▼天使たちが街をゆく(辻邦生)
- ▼命(三田誠広) ▼家の匂い(増田みず子) ▼マー先のバカ(杉本治) ▼死者の輪舞(泡坂妻夫) ▼関西周辺一泊の旅(実業之日本社)
- ▼日本の名随筆(1)(11)(長部日出雄) ▼密使支倉常長(1)(11)(長部日出雄)
- ▼うさぎむさぎ(飯沢暎) ▼黒いドレスの女(北方謙三) ▼おお、定年(加藤) ▼ゴルバチョフ(トーマス・パトソン) ▼まわり道の幸せ(長崎源之助) ▼文七殺し(山本昌代) ▼やけたた奴(難波利三)
- ▼手作りアクセサリー(ひかりの)

く) ▼街に顔があった頃(吉行淳之介、開高健) ▼スケボーに乗った天使(浜田幸) ▼言の葉文の葉(滝いく子) ▼名もなく貧しく美しく(松山善三) ▼信じることと疑うこと(なだいなだ) ▼ワンダフル淡路・鳴門(神戸新聞出版センター) ▼ありふれた奇蹟(佐木隆三) ▼綾の波(中里垣子)

星になったチロ(藤井旭) ▼かぎばあさんは名探偵(手島悠介) ▼さらばおやじどの(上野隆) ▼フジヤマのトビウオ(那須田稔) ▼銀のうさぎ(最上一平) ▼生きている証(土佐朝一) ▼歌えあしたの青春(野矢一郎) ▼一年と一日(ウイリアム・メイン) ▼長いしっぽのポテトおじさ

ん(上崎美恵子) ▼大きな木の下で(クレイトン・ベス) ▼ぼくお月さまとはなしたよ(フランク・アンシュ)

牛乳に パンにラーメン 焼きそばと
我が家の味は インスタントガ



(市教育委員会発行の「子どもの目」から)

南国歌壇

目路遠く夕陽のくだつ桂浜
孤の深くしてさらに延び映ゆ
大埔 中田憲秀
亡き親に為せしが如くセーターを
妹は買いきて着に被せ呉る
篠原 小松延江
東ね来し賀状の中になつかしも
癖ある友の水茎のあと
立田 池田小村

おおかたは微となるべし千大根
藤の母は雲行かして切る
西山 岩貞健一郎
待ちわびし賀状鮮やか水ぐきも
再度見る無く然し友は逝く
後免町 徳久まさみ
あかときの海で釣れゆく青鮎に
まどろむ海のまは目はさむる
浜改田 西村繁行

南国柳壇

はいはいのひ孫の写った年賀状
のんびりと呑んべえ酔うて三が日
西山 竹村寿賀
十市 沢村鶴一
老ぼけに勝つて生きよう十九の氣
持ち
立田 清岡照子
ほろ酔いのお世辞巡査を苦笑さす
岡豊町 橋田井波

南国俳壇

望郷の薄目で眠る冬こけし
日向ぼこあぐらの似合う少女かな
電話ベル時には短気一氣に冬
かまきりの目玉に山河黄落す
箸を割る音のひびけり開汁会
一湾の冬潮の照り遊影まで
祈ること多いのでひら 冬毒
ハレー星接近 電話が鳴っている
大寒の厨ふつつ飯匂う

馬場左枝(忍冬匂会)
長野扇女()
高村三喜子()
井上なるき(天狼俳句会)
西川雅文()
中村祭生()
山崎勝子(市民句会)
森本育三()
天野玲子()